

## 令和3年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました



令和3年7月2日(金)上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会(以下、協議会という。)を開催し、令和2年度 of 取組報告と令和3年度 of 取組方針について、委員の皆さんと協議しました。

各職能団体の立場から、4つの部会に対する意見交換が活発に行われ、方向性を共有するとともに、それぞれの専門職の立場でできることを確認しました。

### ◆意見等

- 入退院時連携の研修会では、病院看護師が参加し、在宅に戻った患者をイメージする大切さを学んだ。院内において伝達講習を行うなど共有を図っている。
- 行政からの働きかけもあり、地域連携連絡票を作成するケアマネは増えている。退院支援では本人に会えない状況でアセスメントすることが課題となっている。  
(事務局から、「地域連携連絡票は93の事業所でサービス利用時の申込書として活用している」との聞き取り調査の状況を報告)
- 急変時対応では、希望に沿った最期を迎えられたかという評価も考えていく必要がある。
- 救急医療情報キットの更新については、まだルールが決まっていないため、話し合っていく必要がある。

- 「口から食べること」は本人の思いや希望に沿う支援につながる。
- 自分の言動を振り返ると、本人を尊重した対応ができたかどうかハッと気付かされた。職能団体で学習するなど、共有したいと思う。
- 市民啓発は40～60歳代は地元にはいない人も多い。この世代に限らず、人生会議ができるように進めていけるとよい。
- 医療、歯科、薬剤、看護、介護など、どの職種も欠けることなく、全員が関わるようになるとうい。どの職種も大切な役割がある。
- 在宅医療・介護連携推進事業の評価としては、レセプトなどの分析もあるが、専門職や住民の変化をとらえ、客観的にみる指標が必要だと思う。
- 4つの部会ではそれぞれ進めてきているが、すべての部会に共通する点が「その人の思いを尊重する」ことだと思う。思いを尊重することで、本人・家族・専門職皆が満足できることにつながる。



協議会や部会の活動そのものが多職種連携のプロセスになっています。2年目になり、部会内や専門職間の関係づくりも進んでいると実感します。今後は、引き続き、部会毎の取組を進めていきます。